

一般社団法人日本粘土学会 平成 29 年度第 3 回理事会議事録

日 時：平成 29 年 7 月 29 日（土）15:10～17:20

会 場：早稲田大学西早稲田キャンパス 55 号館 N 棟 1 階 第二会議室

出席者：理事（13 名）：八田珠郎、小暮敏博、千野裕之、河野元治、蛭名武雄、大川政志、太田俊一、地下まゆみ、篠原也寸志、高橋範行、田村堅志、丸茂克美、渡辺雄二郎

委任状（16 名）：會澤純雄、伊藤健一、伊藤弘志、上原誠一郎、上原元樹、梅村泰史、大河原正文、岡田友彦、川俣 純、桑原義博、林 亜紀、前田雅喜、牧野知之、皆瀬 慎、宮脇律郎、和田信一郎

監 事（2 名）：月村勝宏、山崎淳司

理事以外の常務委員（8 名）：日比野俊行、鈴木正哉、志々目正高、佐藤 努、横山信吾、小口千明、鈴木憲子、手束聡子

事務局：土信田

成立の確認：理事総数 29 名の過半数 15 名

出席常務委員 13 名、委任状提出理事 16 名、合計 29 名で理事会の開催は成立

審議事項

1. 事務局について

八田会長より、法人化後の学会業務の円滑化と経費削減を進めるため事務局を（株）国際文献社に変更することが提案された。次に河野常務委員長より、事務局変更に関するこれまでの経緯、複数社から提出された業務委託見積書及び学会運営に関する実績等の説明が行われ、審議の結果、事務局を（株）国際文献社に変更することが承認された。

2. 平成 29 年度事業中間報告

各担当委員より、平成 29 年度事業中間報告書の各事業項目について下記のとおり説明が行われ、審議の結果、承認された。

(1) 学術雑誌の編集と発行：1) 日比野編集委員長より、粘土科学の編集と発行状況について報告がなされた。2) 蛭名編集委員長より、Clay Science の編集と発行状況について報告がなされた。

(2) 研究発表会・見学会等の開催：河野常務委員長より、第 60 回粘土科学討論会（九州大学）の実施状況について報告が行われた。次に、丸茂実行委員長より、第 61 回粘土科学討論会（富山大学）の準備状況についての説明が行われた。

(3) シンポジウム・セミナーの開催：田村企画委員長より、第 60 回粘土討論会でのシンポジウム開催報告及び第 61 回粘土討論会でのシンポジウム開催準備状況について報告がなされた。

- (4) 標準試料: 鈴木標準粘土委員長より、標準粘土の頒布状況について報告がなされた。
- (5) 広報: 横山広報委員より、ホームページの運用状況について報告がなされた。
- (6) 渉外: 佐藤渉外委員より、第 4 回アジア粘土会議での協議内容、AIPEA ニュースレター原稿、2004 年 Asian Clay と米国粘土学会との合同会議についての報告がなされた。
- (7) 表彰: 河野常務委員長より、平成 28 年度会賞等の表彰の報告および平成 29 年度の募集と選考について説明が行われた。
- (8) 研究促進: 河野常務委員長より、研究グループ援助事業の継続を行っていることが報告がなされた。
- (9) 庶務: 篠原庶務委員より、他学会等との連絡及び協力の報告、関連学協会への共催及び協賛の報告、会員動向についての報告が行われた。
- (10) 学会誌等の電子化推進: 河野常務委員長より、国立情報学研究所電子図書館事業(NII-ELS)に掲載されている電子データの J-STAGE への移管と公開の完了、ホームページ新バージョンの完成と運用開始、「粘土科学」及び「Clay Science」の 4 月からの J-STAGE 登録と公開開始について報告がなされた。
- (11) 常務委員会及び理事会: 河野常務委員長より、常務委員会及び理事会の開催状況が報告された。

3. 平成 29 年度会計中間報告

志々目会計委員より、平成 29 年度会計中間報告書に基づきほぼ予算通りの収支状況であることが報告され、審議の結果、承認された。

4. 会計収支改善に向けた対応

河野常務委員長より、「Clay Science の電子ジャーナル化」及び「粘土科学討論会講演要旨集の電子化」についての説明が行われ、審議の結果、承認された。なお、「Clay Science の電子ジャーナル化」については今後会員へのアナウンスと有料配布に関するアンケートを実施し、平成 30 年 12 月発行の Vol. 22, No. 4 から実施することが認められた。「粘土科学討論会講演要旨集の電子化」については、第 62 回粘土科学討論会から冊子体の発行は行わず、討論会当日は USB 媒体による電子ファイルを配布することとした。なお、特許との関わりがあるので、J-STAGE で公開は討論会開催後に実施することが確認された。

5. 平成 30 年度事業計画

各担当委員より、平成 30 年度事業計画書の各事業項目について下記のとおり説明が行われ、審議の結果、承認された。

- (1) 学術雑誌の編集と発行: 1) 日比野編集委員長より、粘土科学の編集と発行計画について説明が

行われた。なお、粘土科学の巻号と発行年のずれを解消するため、56巻2号を2号と3号の合併号とすることが認められた。2) 蛭名編集委員長より、Clay Science の編集と発行計画について説明が行われた。

(2) 研究発表会・見学会等の開催: 丸茂討論会実行委員長より、第61回粘土科学討論会(富山大学)の実施計画について報告が行われた。次に、山崎委員より、第62回粘土科学討論会(早稲田大学)についての説明が行われた。

(3) シンポジウム・セミナーの開催: 田村企画委員長より、第61回粘土討論会でのシンポジウム実施計画及び第62回粘土討論会でのシンポジウム計画について説明が行われた。

(4) 標準試料: 鈴木標準粘土委員長より、標準粘土の頒布計画と新たにハイドロバイオタイト(南アフリカ)を頒布試料に追加することが説明された。なお、試料の利用を促進するため、1試料あたり数行程度の説明を記した簡単な説明書を作成することと、「標準試料」の名称には問題があるため「参考試料」に統一することが確認された。

(5) 広報: 河野常務委員長より、ホームページの運用計画について説明が行われた。

(6) 渉外: 佐藤渉外委員より、第4回アジア粘土会議など、海外との連携した活動計画についての合同会議についての説明が行われた。

(7) 表彰: 河野常務委員長より、平成30年度会賞等の受賞候補者の募集及び選考計画についての説明が行われた。

(8) 研究促進: 河野常務委員長より、研究グループ活動援助事業の実施計画が説明された。

(9) 庶務: 篠原庶務委員より、他学会等との連絡及び協力の実施、関連学協会への共催及び協賛の実施、会員動向の把握についての説明が行われた。

(10) 学会誌等の電子化推進: 河野常務委員長より、粘土科学、Clay Science、粘土科学討論会講演要旨集のJ-STAGE登録、Clay Scienceの電子ジャーナル化、粘土科学討論会講演要旨集の電子化についての説明が行われた。

(11) 常務委員会及び理事会: 河野常務委員長より、常務委員会及び理事会の開催計画の説明が行われた。

6. 平成30年度予算

志々目会計委員より、平成30年度予算書に基づき、収入と支出案および事務局変更に伴う一時的な支出増についての説明が行われ、審議の結果、承認された。なお、河野常務委員長より、本年度の会計決算の状況により予算内容に若干の修正を行うことが説明され、認められた。

7. 日本粘土学会規程等の改正・制定について

河野常務委員長より、次の定款改正についての説明が行われ、審議の結果、すべて承認された。

(1) 事務局変更に伴う第1章2条の事務所の所在地を新宿区に変更する。(2) 第4章第12条の(5)

会員規程を会費規程に変更する。(3)第4章第12条2項として「総会を招集するには、書面による通知の発出に代えて、電磁的方法により通知を発することができる。」を追加する。(4)第4章第17条3項に「ただし、出席した正会員全員が選任議案の一括決議に同意した場合には、この限りではない。なお、」を追加する。(5)附則のすべてについて、削除することに法的な問題がなければすべて削除することとする。次に、一般社団法人日本粘土学会 学会賞等選考委員会内規の5.その他に「(1) 他機関が実施する表彰等の受賞候補者の推薦依頼を受けた場合、推薦候補者を選考して理事会に報告する。」を追加することが提案され、審議の結果、承認された。最後に、一般社団法人日本粘土学会 バナー広告取り扱い規程の制定案が説明され、審議の結果、承認された。

8. 平成29年度日本粘土学会学会賞等選考結果

佐藤選考委員長より平成29年度日本粘土学会学会賞等選考結果についての報告が行われ、審議の結果、次の受賞者が承認された。

学会賞：川俣 純

受賞題目「粘土鉱物-有機化合物ハイブリッドによる光学材料の創製」

功績賞：なし

奨励賞：なし

技術賞：田谷野孝夫、村田昌英、内野英史、寒河江竹弘

受賞題目「オレフィン重合用メタロセン触媒への粘土鉱物の適用」

論文賞：安楽総太郎、松原勇武、森本和也、佐藤努

論文：オマーンオフィオライトに湧出する高アルカリ泉周辺における二次鉱物の生成とその要因、粘土科学(2017)、第55巻第2号、17-30

論文賞：M. Komatsu, K. Tamura, K. Saruwatari, A. Yamagishi, and H. Sato

論文：QCM studies on adsorption of water molecules on a single-layered clay film, Clay Science (2016) 20(1), 13-19.

9. 平成29年度日本粘土学会学術振興賞選考結果

河野常務委員長より、平成29年度日本粘土学会学術振興賞応募者の審査結果が報告され、審議の結果、次の2名の受賞者が承認された。

受賞者：長下 敬（山口大学大学院創成科学研究科）、小池正和（早稲田大学大学院先進理工学研究科）

10. 名誉会員の推薦

河野常務委員長より、名誉会員推薦書について説明され、審議の結果、坂本尚史会員を名誉会員として総会に諮ることが承認された。

1 1. 平成 29 年度総会議案

河野常務委員長より、成 29 年度総会の日時、会場、議案について説明が行われ、審議の結果、承認された。なお、今後の議案書の作成の過程等で議案の修正等が必要な場合には修正を認めることとした。また、今回は特別決議の総会となるため 205 名以上の出席が必要となるため、委任状の提出先を篠原庶務委員とし、委任状の提出状況の把握と提出呼びかけに備える体制を整えることとした。

1 2. 粘土科学討論会

(1) 第 61 回粘土科学討論会

丸茂実行委員長より、第 61 回粘土科学討論会のお知らせ (2nd サーキュラー) について説明が行われた。審議の結果、次の修正を行うことが認められた。(1) 受付・参加登録の項目に事前支払いの金額を掲載する。その際、現バージョンの説明文等の修正や追加が必要な場合には対応を行う。(2) 見学会の項目に、開催に必要な参加者が集まらなかったため見学会を中止とする旨を記述する。(3) 総会の項目を独立させる。

また、丸茂実行委員長より、富山県や富山市からの補助金を申請するために討論会会計を赤字決算とし、補助金の減額を避けるため見学会を実施して会期を 3 日間とすること、さらに参加者 10 名で見学会を実施した場合の費用の不足分を討論会会計以外の学会予算から補填することの提案が行われた。この提案に対して、八田会長及び河野常務委員長より補助金を得るために討論会会計を赤字とすること及び補助金の減額を避けるために見学会を実施することに対する反対意見が出され、さらに討論会申し合わせにより参加登録費、見学会費、懇親会費はそれぞれ独立会計である旨が説明された。審議の結果、丸茂実行委員長より見学会を中止とすること、見学会担当の高木委員に八田会長より詫び状を送付することが要請され、これらを認めることとした。なお、後日(8 月 3 日)、高木委員より八田会長及び河野常務委員長宛に見学会参加者の再募集を行って参加者が募集定員に達した場合には見学会を開催したいとの申し出があり、八田会長と河野常務委員長の協議により再募集を行うことを認めることとし、その旨を高木委員と理事全員にメールにより連絡した。

なお、丸茂実行委員長から修正文が提出されたので以下に原文を併記します。「2) 見学会の項目に、1nd サーキュラーに記載された見学会に十分な参加希望者が集まらなかったため、当初の見学会の実現は困難となった旨を記述する。(3) 総会の項目を独立させる。また、見学会の申込状況等について説明が行われ、高木委員が見学会の規模を縮小し、学会からの補助が得られるならば実現可能との提案があったことが紹介された。しかし、粘土科学討論会の参加費、懇親会費、見学会費はそれぞれ別会計のため、見学会費の不足分を流用できないため、規模を縮小しても見学会の実施は困難という結論に達した。丸茂実行委員長の要請を受けて会長から高木委員に規模を

縮小しても見学会の実現は困難となることの説明を送付することとした。」

(2) 第 62 回粘土科学討論会

山崎委員より、第 62 回粘土科学討論会について、実行委員長：菅原委員、開催日程：平成 30 年 9 月 10、11 日、場所：早稲田大学西早稲田キャンパスを予定していることが報告され、承認された。

報告事項

1. 日本学術振興会育志賞推薦候補者の選考

八田会長より、本学会会員から日本学術振興会育志賞の推薦依頼があり、会員全体の公平性を保つため、会員全員に日本学術振興会育志賞推薦者候補の募集案内を送付したことが報告された。その後、応募者について会長、副会長、常務委員長で審査を行い、候補者 1 名を粘土学会会長推薦として日本学術振興会に推薦書類を提出したことが報告された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、会長及び監事がこれに記名押印する。

平成 29 年 8 月 24 日

一般社団法人日本粘土学会理事会

会 長 八 田 珠 郎 ⑩

監 事 月 村 勝 宏 ⑩

監 事 山 崎 淳 司 ⑩